

令和7年度 東京情報大学総合研究所プロジェクト研究
研究実績報告書

1. 研究課題名

佐原三菱館の歴史に関する調査（川崎財閥の黎明期に関する調査）

2. 研究組織

区分	氏名	所属・職名
研究代表者	堂下 浩	総合情報学部 総合情報学科・教授
研究分担者	井関 文一	総合情報学部 総合情報学科・教授
	伊藤 幸郎	総合情報学部 総合情報学科・非常勤講師
	原 敦也	総合情報学研究科 大学院生

3. 連携先団体等

団体名	担当部署
香取市役所	生活経済部 市民協働課
	総務企画部 企画政策課
	教育部 生涯学習課

4. 研究期間

2025年4月1日～2026年3月31日（5年計画の3年目）

5. 研究の目的

保存修理が進められてきた佐原三菱館は2022（令和4）年4月に竣工された。同館は千葉県有形文化財に指定される歴史的な建造物である。しかしながら、1914（大正3）年に同館を建設した川崎銀行の母体であった川崎財閥の資料は戦時下で焼失したことで、その建設経緯を含めた詳細は十分に解明されていない。

そこで、本調査では同館に関わる資料、特に同館を建設した川崎銀行及び川崎財閥に関連する資料を収集するとともに、香取市から修復調査で新たに発見された資料も加えながら、川崎銀行が佐原に荘厳な支店を建設した理由などを解明する。さらに川崎銀行及び川崎財閥の経営実態に関しても一段と解明していく。

今年度は引き続き、川崎財閥が明治維新の間もない時期に基幹的機能を担った営業店を佐原に開設した経緯を知るために、川崎財閥の基礎を築いた初代・川崎八右衛門について調査を進める。さらに今年度においては、新たに収集された情報をもとに様々なコンテンツを追加しながら、パネル展示や動画制作といった形で、研究成果のアウトリーチ事業を本格化するための準備にも注力する。

6. 研究報告

今年度においては、改めて文献調査を行うとともに、香取市生涯学習課文化財班の坂本行広氏や川崎定徳株式会社の川崎善保氏へのインタビュー調査を通して得られた知見を整理した上で、その内容を動画として作成した。

7. 成果の公表

① 香取市公式動画チャンネルでの公開

- ・タイトル：「川崎銀行佐原支店 職人技とディティールヒストリー編」
- ・掲載先の URL 及び QR コード：
<https://www.youtube.com/watch?v=r4aO2iYoHzU&t=4s&pp=ygUP5L2Q5Y6f5LiJ6I-x6aSo>



- ・本作品の概要：

該当部分の時間		概要
0:00	1:03	本動画の概要説明。佐原三菱館(旧川崎銀行佐原支店)の全景を映写しながら、建物が修理・復元された経緯などを説明。
1:04	1:55	佐原三菱館の木製扉に関する解説。改修工事では建物出入口を設計図に基づき当初の場所に木製扉として復元。また、扉上部に創建当初にあった「川崎銀行佐原支店」文字看板を復元。
1:56	2:20	外壁に関する解説。外壁はレンガ造りで修復前のレンガからは製造元を示す3種類の刻印が見つかりそのうちの1つである「山に本」は東京山本煉瓦工場のレンガを使用していた可能性が高いと思われる。
2:21	3:16	屋根のドームに関する解説。イギリス調の装飾を意図したと思われる形状で、屋根には当時の希少な建材が使用されていた。改修工事では創建時の仕様に準じて、上部を銅板葺き、下部をスレート葺きとして復元。ドームは木製の小屋組みに漆喰を塗り、その上に銅板を張った。解体調査では北側と西側に焼け跡が残っていた。改修工事では既存の初材を極力残し、新材で補強を行った。また、修理前に失われていた煙突の頂部も当初の設計図に沿って復元。
3:17	4:29	内部に関する解説。煉瓦造二階建ての構造で、吹き抜けとなっている。室内は営業室と公衆室に分けられている。床は格調高い人造石研ぎ出し仕上げとなっている。復元する際、当時の床のわずかな断片をもとに、何度も試験施行を繰り返した。復元の手がかりとなった当時の床材が今でも玄関入り口脇に僅かに残っている。
4:30	6:30	室内の窓に関する解説。窓ガラスの一部には、フロート製法以前の歪みのある古いガラスが残されていた。窓の外側には鉄製のシャッターがあり、室内にあるスイッチで操作する。また、シャッターの機構は当時のままで今でも変わらずに稼働する。
6:31	7:17	公衆室と営業室の間にあるカウンターに関する解説。カウンターの天板にはケヤキの1枚板が使用されている。また、金網は手作業でリボン状の真鍮板をねじって作られていて、約7000ものリベットを打っている。
7:18	8:18	営業室内部に関する解説。室内にある暖炉の前には支店長席があったと言われている。暖炉の構造や修理の詳細などについて説明。また、暖炉の釜は鋳物製「堀商店 No.15」という製品で、実物は現存しない。当時の商品カタログから、装飾と釜本体を鋳物製で復元。

8:19	8:40	営業室奥の 2 つの扉がある部屋についての解説。左側の扉の奥に、銀行の金庫があったことが分かっており、他に書類等の倉庫として使われていた。右側の扉は多目的とされる附属棟へ通じる扉であった。
8:41	9:09	営業室右奥の螺旋階段についての解説。当時の古い写真を参考に復元。現在は建築基準法に沿わない構造のため、使用不可となっている。当時、螺旋階段は 2 階のシャッター操作のために使われていたと思われる。
9:10	9:33	修理に関する解説。レンガ造りの建物を地震から守るため、周遊通路に構造補強の鉄骨を入れた大正時代の雰囲気を変えないよう、1 階の見学スペースからはこの鉄骨が見えない状態。
9:34	10:14	本動画の締めくくり。佐原三菱館(旧川崎銀行佐原支店)の室内全景を映写しながら、創建時からこだわってきた強い想いについて説明。

② パネル展示

以下の通り、佐原三菱館パネル展示を開催した。

- ・ 名称： パネル展示「佐原三菱館を知る
～旧・川崎銀行佐原支店を設立した初代 川崎八右衛門の系譜～」を開催
- ・ 期間： 2026 年 1 月 17 日(土)～1 月 29 日(木)
- ・ 場所： 佐原町並み交流館（千葉県香取市イ 1903 -1）
- ・ 内容： 今年度の展示では、川崎銀行を明治期に創業した川崎財閥の創設者である初代・川崎八右衛門にフォーカスしたパネルを用意した。併せて同時期に創業した第一国立銀行や三井銀行、そして遅れて銀行業に参入した三菱銀行の系譜などに触れながら、川崎銀行が発展する歴史の中で佐原三菱館の位置付けが窺い知れるような解説パネルも展示した。

8. 総評

団体名	香取市	部署	市民協働課
-----	-----	----	-------

香取市と東京情報大学の堂下ゼミナール（以下、堂下ゼミ）は共同で佐原三菱館（旧・川崎銀行佐原支店）をテーマとした研究を続けております。昨年度から堂下ゼミが主体となり本研究の一環として、佐原三菱館の内部や外部を高精細カメラやドローン等の器材で記録し、川崎銀行佐原支店が開設された往時の姿を解説する動画を作成されました。さらに、堂下ゼミはこれら研究の知見に基づいたパネル展示を佐原三菱館にて実施しました。発表されたこれらコンテンツは香取市民だけでなく、国際的にも香取市佐原の伝統的建造物群保存地区と景観形成地区の魅力を伝える内容となりました。

引き続き、香取市民が香取市の文化財に対しいっそうの愛着を深めていただくための機会創出を、東京情報大学と協力しながら進めていく所存です。併せて、東京情報大学からのご支援を宜しくお願い致します。